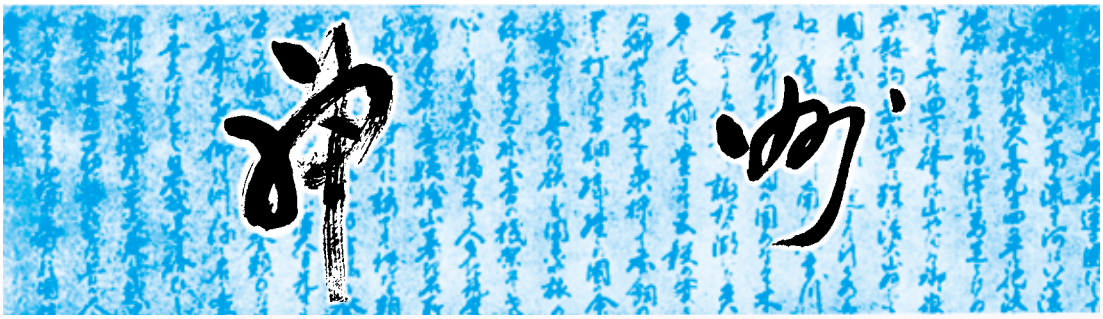


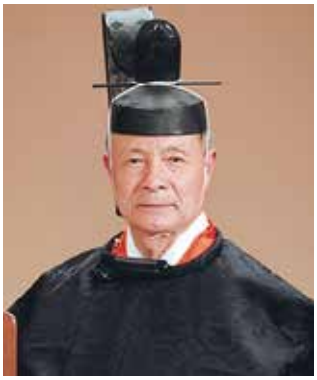
長 野 県 神 社 庁 報　第132号

令和３年１月１日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
（長野市箱清水1-6-1　電話026-232-3355　FAX026-233-2720）

令和御大典事業にて新しく建て替えられた戸隠神社中社大鳥居

年頭の辞

長野県神社庁　庁長　宇治橋　淳



令和三年辛丑（かのとうし）歳、皇紀二六八一年の新しい年を迎え、皇室の彌栄、日本国の安全、世界の平和をお祈り申し上げます。

令和御代替の御大禮の儀は意義深く全て修められ、更に立皇嗣の礼も令和二年十一月八日に挙行され慶賀の誠の意を捧げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の病禍が起こり、神社の参拝の心得、祭祀の自粛縮小など多大な影響を受け、この病禍の終息には時間が必要と思われます。

長い歴史の中で先祖、先人達はこれよりも大きな災害や病禍を乗り越えて来ました。

我々神社に関する者は一日も早い終息を一途に神に祈り、氏子社会に奉仕してゆくことが肝要と思われます。

県神社庁新庁舎氏子会館の建設に向けて募財活動も始まり、今年は土地取得確定の年となります。皆様の一層の御理解とご支援をお願い申し上げ、年頭の挨拶と致します。

年頭の御挨拶

長野県神社総代会　会長　藤村　吉彦

新年あけましておめでとうございます。

謹んで皇室の弥栄と今上陛下の御健勝、県下神社御社頭の益々の御隆昌をお祈り申し上げます。

延期されておりました立皇嗣の礼は皇居内宮殿に於いて国の儀式として挙行されましたことは大変に喜ばしい事であります。

皆様におかれましては恙なく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年初め頃から新型コロナウイルスは国内外に感染拡大致しました。緊急事態宣言により下火になった頃もありましたが、再び感染者が増加し、所謂第二波の状態で来ており、感染拡大に伴い、昨年の諸会議・諸行事等が中止となりました。新型コロナウイルス感染症は未だに収束の兆しが見えず、まだまだ予断を許さない状況にあります。

この様な時であるからこそ実情に応じた感染予防対策をとりながら我々神社関係者一同が心を一つに、益々御社頭の御神徳の宣揚、祈りを捧げ、この時勢に打ち克ち、日本人古来の心をより一層醸成していかなければなりません。

皆様にはご健康に御留意下さりそれぞれのお立ち場でご尽力いただきますことを切にお願い致しまして新年の挨拶とさせていただきます。

目次

庁長会長年頭の辞　2
目次・日誌抄　3
第七十五回連合大会　4
新型コロナウイルス感染症について　5
自然災害からの復興事業について　8
戸隠神社式年大祭について　10
神宮大麻頒布表彰・新任神職の横顔　13
寄附者顕彰・辞令　14
伝統技術を未来へ　15
令和二年度神社庁歳入歳出決算書　16
令和二年度災害救助慰藉決算書　17
年賀広告　20
神宮大麻の奉斎について

日誌抄

（令和二年七月～令和二年十一月）

七月

一日　月次祭
三日　庁舎建設特別委員会
　　総代会役員会
六日　監査会
十日　神宮大麻暦頒布常任委員会
十三日　理事会
十三日　人事諮問委員会
十九日　兼職祭式研修会
十九日～二十日　初任神職研修会（前期）
二二日　教育関係神職協議会役員会
二九日　第九十七回定例協議員会

八月

一日　月次祭
六日　神政連県本部役員会
十九～二十日　初任神職研修会（後期）
二四日　辞令伝達式

二四日　総代会支会長会
　　於　ホテルメトロポリタン

九月

一日　月次祭
十二日　神殿例祭

十七日　神宮大麻暦頒布始式
二九日　庁報編集委員会

十月

一日　月次祭
六日　辞令伝達式
六日　庁舎氏子会館建設特別委員会
九日　理事会
　　神宮大麻暦
　　頒布始奉告祭
十九日　教化部教化委員会
二三日　神社本庁
　　定例評議員会
二七日　第七十五回
　　長野県神社庁・
　　長野県神社総代会
　　連合大会
　　於　神社庁講堂

十一月

一日　月次祭
四日　県内紅葉会懇話会
　　於　ホテル国際21
十二日　教化部役員会
十二日　庁報編集委員会
十六日　東海五県神社庁庁長参事会
　　於　愛知県名古屋市
十八日　監査会

第七十五回長野県神社庁長野県神社総代会連合大会

本年の連合大会は、新型コロナウイルス感染症の影響にて、規模を縮小して十月二十七日に長野県神社庁神殿の大前にて開催されました。

宇治橋庁長よりは挨拶にて「感染症の拡大により各神社も大変な状況であるが、我々神社関係者は、ひたすらに神明に祈ることが使命であり、粛々と奉仕を継続する事が大切である。改めて神社を今日まで護持してきた過去の先人たちの歩みを顧みて県内関係者が互いに手を取り合い厳しい時局に対処して参りたい」

と呼びかけ、続いて藤村総代会長よりも「人口の減少や地方に於ける過疎化の進行に加え今日のコロナウイルスの感染拡大など、変化の著しい社会情勢下にて自国への愛情を育むには最も身近な共同体となる地域社会からの働きかけが非常に重要であります。神社は古来より地域社会結束の中心となってきた歴史があり、各地域の総代の皆様には指導的な立場にて氏子各位に働きかけてもらいたい」と呼びかけ聖寿万歳を以て大会を終了しました。

本年の連合大会は神社庁役員及び支部長と神社総代会役員と支会長に絞っての開催でしたので本紙にて本年の表彰者のお名前を記し、御功績を称えたいと存じます。

◎長野県神社庁定例表彰

神職の部

諏訪神社宮司　金井　重恭　北佐久支部
御射山三社祢宜　唐沢　光忠　上伊那支部
若一王子神社権祢宜　室川　東　大北支部
戸隠神社宮司　水野　邦樹　上水内支部
諏訪神社宮司　久山　勝彦　長野支部
伊勢社宮司　辻　明紀　長野支部

総代の部

皇大神社総代会長　小林　三男　南佐久支会
皇大神社総代　石山　佳克　南佐久支会
諏訪社総代長　山浦　康男　北佐久支会
大星神社総代　山口　好美　上小支会
津嶋神社相談役　熊崎　定男　岡谷市支会
正八幡宮総代　杉村　彰則　岡谷市支会
大御食神社総代会長　新井　亮男　上伊那支会
冨士山稲荷神社総代長　高本　陸男　飯田市支会
諏訪神社責任役員　青木　悦雄　松塩筑支会
穂高神社氏子総代　相澤　幸安　南安曇支会
若一王子神社責任役員　吉澤　哲郎　大北支会
若一王子神社監事　要野　榮宏　大北支会
湯澤神社責任役員　森　宜夫　中高支会
武部八幡宮名誉総代　宮林　晨晴　上水内支会
木留神社責任役員　岡宮喜三男　長野支会

氏子崇敬者の部

小内八幡神社氏子　高見澤史人　中高支会
小内八幡神社氏子　永井　雅文　中高支会

（敬称略）

新型コロナウイルス感染症への対応
～神社本庁策定ガイドラインについて～

令和二年は新型コロナウイルス感染症にて、祭典を始めとする神社の諸活動にも大変大きな影響を与えました。

神社本庁においても神社における感染症予防に関するガイドラインが凡そ以下の通り示されております、こちらのガイドラインを始め境内で掲示できるピクトグラムなども神社本庁にて作成されておりますのでこれらを活用頂きまして、年末年始への御対応をお取り進め願います。

一、基本的な考え方
①「三密」の回避
②こまめな換気の実施
③消毒の実施

これらの基本事項を基に具体的な対応案として、

・行列が発生する場所には足元に目印を付け最低一メートルの距離を取れるよう努め、境内での一方通行の実施などで境内の混雑を防ぐ。

・屋内では一定時間毎に窓を二箇所以上開け換気を実施する

・受付や授与所など参拝者と対面する場所ではアクリル板やビニールカーテンなどで遮断し飛沫感染を防止する。

・授与所や待合所に消毒液を設置し、手水又はおみくじ、受付票記入の際など参拝者に手指の消毒を呼びかける。

柄杓や鈴緒を一時的に撤去し手水は流水にて行い、賽銭箱も臨時に複数設置するなども検討。

柄杓を用いない手水の一例（戸隠神社）

・マスク着用や発熱等の症状のある場合は参拝を控えるなどの感染予防対策を参拝者自身で行うよう呼びかける看板や張り紙を掲示する。

神社によっては社殿や境内の状況にて、これらの対応が実施困難である場合も想定されますが、マスクの着用の徹底や会話の制限、こまめな消毒と換気によって感染リスクを各段に低く抑えることが出来るとの意見もあります。御社頭の状況に応じて適宜ご判断の上対応をお願いいたします。

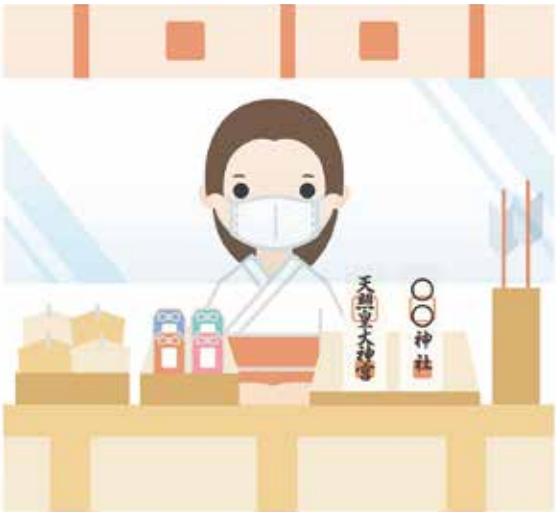
また、神社の祭祀については、来賓や参列者の縮小や挨拶の短縮や直会についても料理の持ち帰りの対応をするなど祭祀の本義を損なわない範囲で工夫し実施することが示されています。

感染を恐れるあまり神社での祭典そのものを取り止めてしまうことは相応しくありません。

先人達も大きな疫病が発生した際は、より盛大に祭祀を行い、御祭神に鎮静化を祈願してきた歴史があります。

これらの事項を御参考に氏子総代を始め御関係の方々と充分御協議を頂き合意を得た上でお取り進め頂きます様お願い申し上げます。

掲載しておりますガイドラインの詳細や境内掲示用のピクトグラムは神社本庁のホームページからダウンロードできますのでご覧ください。



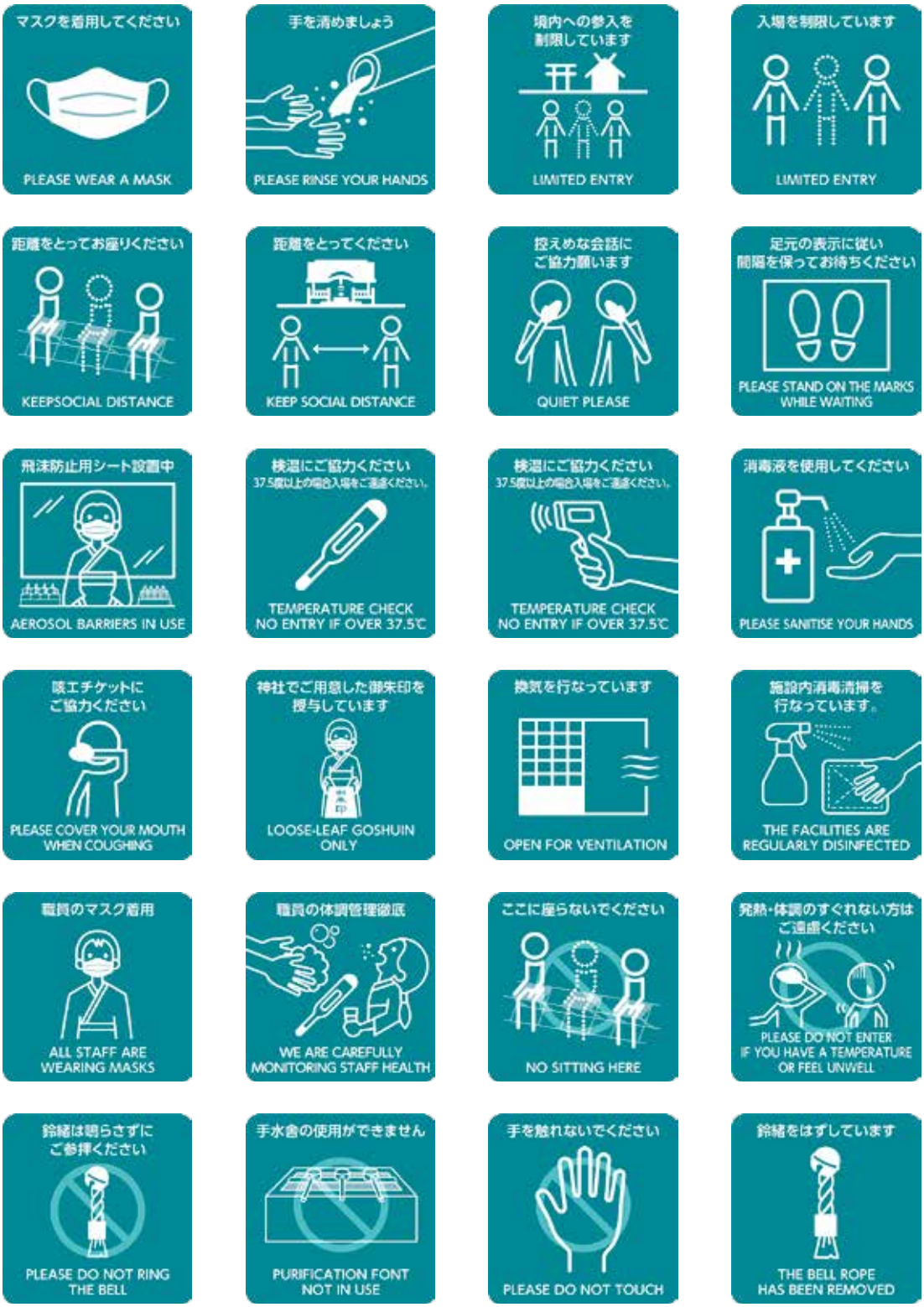
神社における新型コロナウイルス感染症ガイドライン全文については左の神社本庁ホームページに掲載されております。

また社頭での対策として参拝者への注意事項をピクトグラムにて作成されております、これらピクトグラム及びガイドラインを御参考いただき、御社頭の状況に応じてご活用ください。

コロナ対策
ガイドライン

コロナ対策
ピクトグラム

新型コロナウイルス感染症対策ピクトグラム24種



自然災害からの復興事業について
～神社本庁の復興諸制度の活用事例～

～神社本庁災害対策資金の活用～

庁報編集委員　片山　求

令和元年十月十二日の台風十九号では、全国各地に甚大なる被害をもたらし、長野県内においても報告がされている二十六社のお社で被害が確認されました。一日も早い復旧をお祈り致しますとともに、この報告を一読いただき、ご参考にして頂けたら幸甚に存じます。

私が宮司を務める、中野市草間鎮座（下高井支部）日和山神社の石垣は、昭和十五年改築工事を行い、八十年の長きあいだ、神社を支えて参りました。

台風十九号災害の少し前、令和元年七月二十八日早朝、連続した降雨により神社の石垣が崩れました。

復旧には、氏子数二五〇戸の協力無くしては叶わないため、氏子総代並びに神社世話人との話し合いを重ねました。その中で、神社本庁災害対策資金を活用し、石工による手積みから「箱型擁壁工法」という現代の工法により進めることに決定し、長野県神社庁に申請の確認に赴きました。

神社本庁では、規定を設けており、災害の程度・状況から、判断がなされることがわかりました。当時の降雨状況、被害の写真、新聞掲載状況、神社決算書過去五年分の財政状況の各状況を報告書としてまとめ、境内が模様替えされることへの承認申請など、各種届出などの進達を経て、令和二年七月十六日神社本庁の財政審議会にて復旧費用として「一一〇〇万円」を一〇年間無利息で毎年一一〇万円の返済で借入することが出来ました。

新たな石垣は五段組で、それぞれ独立した擁壁となっており、裏込めはコンクリートではなく単粒砕石を使用することで排水性と耐震性が高まりました。

現在は、竣工奉告祭も終わり、地元ローカル新聞掲載、神社新報社にも関連記事の送付をしております。

重ねて、この報告が被災神社の参考に成り、復興の一助と成りますことをご祈念申し上げ報告と致します。

石垣復旧で竣工奉告祭
草間の日和山神社

北信ローカル
石垣復旧工事に着手
日和山神社で安全祈願祭

被災神社への諸制度の紹介

自然災害の発生については今後も多く想定され、日頃より各神社が主体的に役員・総代等と共に、災害発生を見据えた事前の対策を検討することが重要です。

現在神社本庁では事前に協議検討しておくべき内容を凡そ以下の通り示しております。

①総代などを交へた境内施設の状況の確認及び必要に応じた修理等の検討

②不測の事態を見据えた資金積立等の検討

被害発生の際は報告書の提出となり、災害発生時の記録（写真・新聞記事など）及び復旧工事見積書の添付をお願いしております。

こちらの報告書に基づき被災規模に応じて見舞金が贈呈されます。

なお、報告書提出には期限があり、災害発生時より三ヶ月以内なっておりますので注意ください。

その他の制度には以下のものが御座います。

①神社復興支援金の交付

風水害、地震、落雷による火災、津波等の天災により本殿（拝殿や摂末社は不可）の滅失した神社に対し一〇〇万円が交付されます。

ただし支援金の交付申請には被災報告書の提出と五年以内の再建工事計画が確定している神社に限られます。

②災害対策資金貸付

災害により被害を受けた建物や境内の復旧工事や災害予防処置などの経費として一社三〇〇〇万円を上限に申請内容に基づき貸付を行う制度です。

基本的に無利息にて神社へ貸付されますが、申請には連帯保証人（宮司及び責任役員）の承諾書や返済資金の財源を示す書類等の提出手続きが必要となります。

以上の制度について、活用をご希望の際は長野県神社庁までご連絡をお願いします。

清明～令和の岩戸開き～

令和三年　戸隠神社式年大祭

戸隠神社中社大鳥居と式年大祭

戸隠神社　宮司　水野邦樹

中社大鳥居は、江戸時代中頃に描かれた古絵図や、松代藩伝来の「戸隠山祭礼図巻」の中で柱松行事が行われている処に朱塗りの明神鳥居として鮮やかに描かれております。

その後、明治十四年には神明鳥居に建替えられた後、昭和十一年には、当社奥社の社叢の杉を使用し昭和の明神鳥居として再建されました。八十年余りの風雪により腐朽が見られる様になり、此の度の御代替り及び令和三年式年大祭記念事業として、建替え工事を行う事となりました。

今回の工事設計は、地元戸隠の神職でもある宮川和工設計士に依頼し、その工事の進め方についても、多くの方に作業の様子をご覧頂けるように鳥居前の広庭にて、鉋（かんな）掛け体験会や戸隠ライブカメラでの作業状況の配信を致しました。

そのことにより、皆様より大きな関心を寄せて頂けたこともあり九月一日の立柱の日には、多くの方が見守る中大鳥居をクレーンで吊り上げ建てられた際には、大きな拍手が湧き起こりました。お蔭様で大神様の大いなる御加護のもと無事荘厳なる大鳥居が完成しました。

十一月一日秋晴れの中、中社大鳥居建替え工事竣功祭が、当神社責任役員・聚長並びに工事関係者参列のもと斎行されました。

竣功祭では工匠式として振幣の儀・槌打の儀が行われ、また、当神社に伝承される太々神楽より随身の舞を奉奏し、舞の最後に鏑矢を放ち、鳥居を清める儀式の後、参列者全員で潜り初めをし竣工を祝いました。

直会の席にて、本工事を担当した村上棟梁より「この大鳥居は工事関係者は元より、鉋掛け等で携わった多くの方々の手と熱い想いにより、出来上がった大鳥居です」との御挨拶に、私達も正に同感の思いでありました。

改めて大鳥居建替工事に携わって頂きました全ての方々に、心より感謝申し上げます。

さて、この中社大鳥居竣功祭を令和三年式年大祭の前年祭とし、各種の準備が進められて参ります。

式年大祭は、七年に一度行われる当神社最大の祭事で、その主行事は宝光社に鎮まります御祭神を中社に奉遷する「渡御の儀」と、中社からお戻りになる「還御の儀」であり、これまでは御神輿でお遷り戴いておりましたが、今度の式年大祭では、新たに御鳳輦を調製し執り行う事と成りました。

その他に、太々神楽（県無形民俗文化財）・御神座回廊・離山仏里帰り拝観・御印文拝戴等の行事が催されます。

大祭中に斎行される当神社の太々神楽の主たる舞に「岩戸開きの舞」があり、天手力雄命が岩戸を開かれた時に「天晴れ、天晴れ、あな面白、あな手伸し、あな清明おけ」と申し上げ、清らかで明るい、爽やかな世界に戻られたことを喜ばれる一節がございます。

戸隠神社
ホームページ

式年大祭の
詳細については
こちらをご覧下さい

令和三年

◉五月九日
【御鳳輦行列】
渡御の儀

◉五月二十三日
【御鳳輦行列】
還御の儀

◉期間中毎日催行
特別祈祷

◉期間中連日献奏
太々神楽

◉期間中毎日催行
特別朝拝

◉期間中連日受付
離山仏里帰り拝観
御神座回廊
御印文拝戴

◉七月十一日
柱松神事

今の世の中がこの様になる事を祈願し、この度の式年大祭を「清明（さやけ）～令和の岩戸開き～」と銘打ち、令和三年四月二十五日から五月二十五日まで斎行いたします。

戸隠神社中社大鳥居建替工事

日本伝統建築事務所
矢本八幡宮宮司　宮川和工

令和二年、戸隠神社の象徴とも言える中社の大鳥居が八十四年ぶりに建替えられました。この工事を時系列に沿って振り返ってみたいと思います。

旧大鳥居は昭和十一年九月二十五日に竣功祭より八十年以上の経年にて、今後の強風や地震での倒壊の恐れがあることから、令和元年秋に鳥居の建替えが決まりました。

工事は令和元年十月三十日の既存大鳥居の実測調査から始め、翌令和二年一月二十二日には奈良県天理市の佐藤木材（株）にて仮製材を行い御用材を決定を経て、各部材の寸法や反り形状を確定し、木取り・墨付け・本製材を行い、四面を大きな帯ノコで挽き、柱を八角まで製材するなど、神社への運搬準備を進めました。

二月二十八日には水野宮司様と責任役員の皆様に奈良県までお越し頂き「御用材釿始祭」を斎行、翌月の三月二十七日に既存鳥居の解体清祓式を行い、四月十五日には多くの方に見守られる中で今日まで神社をお守り頂きました旧鳥居を解体しました。

その後も奈良県より搬入しました御用材の鉋（かんな）掛け等の作業を進め、いよいよ九月一日から二日にかけて立柱となり、重量十五トンの新たな鳥居はクレーンにて吊り上げられました。

立柱後も引き続き、屋根銅板張りや金具、礎石の取付が行われ令和二年十一月一日に竣功祭の斎行となりました。

神宮大麻頒布始奉告祭斎行

令和二年十月九日、神社庁神殿に於いて神宮大麻頒布始奉告祭を斎行。左記の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対する表彰が行われた。（敬称略）

◎頒布優良特別表彰

穂高神社宮司　穂高光雄　南安曇支部

◎神宮大宮司表彰

・頒布優秀支部　北佐久支部　更級支部

・頒布優良奉仕者

諏訪護國神社権祢宜　久保田正彦　諏訪支部

有明山神社祢宜　須澤清昭　南安曇支部

武水別神社宮司　堀内潔人　更級支部

小川八幡宮宮司　高山吉富　上水内支部

湯福神社宮司　齋藤安彦　長野支部

平賀神社総代会長　高橋　登　南佐久支部

中牧神社氏子総代長　細尾恭広　上水内支部

◎神社庁長表彰

山家神社宮司　押森　慎　上小支部

和世田神社祢宜　矢澤　是　長野支部

雨宮坐日吉神社年番　中島信光　更埴支会

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

片桐（かたぎり）　章久（あきひさ）　六十歳
諏訪社　祢宜
飯伊支部

このたび諏訪社の祢宜を拝命致しました。

私は大阪国学院の通信教育部にて神職資格を取得しましたが、何分にも実務経験が乏しいため、先輩神職の方々の御指導を得まして、神社の興隆及び地域の皆様の敬神思想の向上が図られますよう精進して参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

隠岐有紀子（おきゆきこ）　三十六歳
神明宮　祢宜
松塩筑支部

この度、神明宮祢宜を拝命致しました。神明宮の鎮座地である安曇野市明科は、犀川の清き流れと美しい山々に囲まれております。この豊かな自然の中で、長年大切に守られてきた神社を同じく次の世代へと引き継いでいくことが、使命の一つではないかと感じております。

神職としての経験も浅く若輩者ではありますが、先輩神職の皆様方にご指導・ご助言を頂きながら研鑽に励んで参ります。よろしくお願い致します。

宮島（みやじま）　好文（よしふみ）　六十五歳
小松神社　祢宜
飯伊支部

この度、下伊那郡阿南町小松神社の祢宜を拝命いたしました。

神道の家で育ち、祖父・父が神職でありながら、神職の詳細が分からないまま今日まで過ごしてきてしまいました。

神職養成講習会において直階を受け、関係者の皆様のお力添えによって神社に奉仕できることになりました。

感謝を忘れず真摯な気持ちで、一つ一つの所作等に心がけてお務めしたいと思っております。御指導御鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

寄附者顕彰　令和二年七月～

神社本庁統理感謝状　三百万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
大北支部	仁科神明宮	大町市	松井秀吾

長野県神社庁長感謝状　三十五万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
大北支部	神明宮	白馬村	西沢　泰
大北支部	神明宮	白馬村	姫川建設㈱代表取締役社長　西沢信男
大北支部	仁科神明宮	大町市	北陽建設代表取締役　原　滋俊

以下同支部同神社

㈱大八木建設　代表取締役社長　大八木善彦／平林正興／山岸正昭／矢口博文／一志陽子／遠藤徹雄／横澤俊幸／横澤宏昭／藤山　泰／鈴木久義／北條茂男／宮崎栄介／中村喜一郎／遠藤雅行／一志　勉／清水邦弘／遠藤幸廣／太田　優／一志道生／原　繁／一志千明／松田陽二／百瀬宗昭／矢口和宏／太田　吏／太田一彦／遠藤一男／鷹巣　守／横澤　実／丸山　尊／昭和電工大町事業所　所長　稲田達也／飯島　修／渡部哲治／横川和生／飯島朗夫／原　毅／横澤英二／横澤和生／中山正蔵／遠藤正明／松坂康男／横澤照夫／小野千浩／下川清志／小野紀和子／松田純治／一志　裕／松田　整／遠藤満永／百瀬治人／一志建五／松田大輔／松田雄毅／中村敏男／遠藤篤和／遠藤　昇／関　昌代／遠藤武茂／遠藤一馬／清水憲一郎／内山晃一／太田智明／遠藤　晟／小野修平／小野一郎／百瀬泰慶／飯島　勉／松田　誠／一志道子・敬子／飯島清一／横澤咲子／横澤サツミ／牛越友之／㈲ひらた製板　代表取締役　平田裕実／㈱相模組　代表取締役会長　相模一男／大糸タイムス㈱　代表取締役　水久保　節／小倉正詩／鈴木備文／鈴木協太／濱澤恭子／宮崎　勇／鈴木育子／松田　正／鈴木啓介／松井　章／千葉茂樹／遠藤一郎／一志博夫／奥原寿雄／千野徳明／千野真二／吉田隆太郎／遠藤高秀／清水今朝人／太田靖彦／清水博光／金原健次／小野玲子／児玉廣子／金森建設㈱　代表取締役社長　金森次郎

辞令　令和二年七月～

名誉宮司称号授与

神社名	本兼職務	氏名	月日	支部名
熊野皇大神社		水澤　光男	八・二十一	北佐久
深志神社		遠藤　久芳	十・一	松塩筑

昇級・神職身分二級

近津神社	祢宜	武者　幸彦	十・一	北佐久
熊野皇大神社	宮司	水澤　貴文	十・一	北佐久
諏訪護國神社	権祢宜	久保田正彦	十・一	諏訪
諏訪大社	権祢宜	渡部　長治	十・一	諏訪
雁田水穂神社	宮司	湯本　正通	十・一	上高井
中島神社	宮司	大杉　明彦	十・一	上水内
常磐神社	宮司	風間　邦博	十・一	飯水
柴神社	祢宜	瀧澤　理恵	十・一	長野

任命

八幡宮	兼　宮司	中山美恵子	七・一	北佐久
堀川神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
山神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
諏訪神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
塩野神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
塩野神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
宮川神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
市神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
科野大宮社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
四箇牧神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
伊勢社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
眞田神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
須々岐神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
葦原渕神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
弓立神社	兼　宮司	今井　貴美	七・一	上小
正八幡宮	兼　祢宜	隠岐有紀子	八・十五	松塩筑
日置神社	兼　祢宜	隠岐有紀子	八・十五	松塩筑
五社	兼　祢宜	隠岐有紀子	八・十五	松塩筑
渚大神社	兼　宮司	中村　敏男	九・十五	松塩筑
諏訪社	兼　宮司	中村　敏男	九・十五	松塩筑
諏訪社上社	兼　宮司	前島　正	九・二十	諏訪
水神社	兼　宮司	前島　正	九・二十	諏訪
水神社	兼　宮司	前島　正	九・二十	諏訪
水神社	兼　宮司	前島　正	九・二十	諏訪
蔦稲荷神社	兼　宮司	前島　正	九・二十	諏訪

昇任

深志神社	宮司	牟禮　仁	八・十六	松塩筑
野々宮社	宮司	中村　敏男	九・十五	松塩筑
深志神社	祢宜	小林　義幸	十・一	松塩筑

本務替

和泉神社（深志神社より）	宮司	遠藤　久芳	八・十六	松塩筑

新任

諏訪社	祢宜	片桐　章久	七・十五	飯伊
神明宮	祢宜	隠岐有紀子	八・十五	松塩筑
小松神社	祢宜	宮島　好文	十・一	飯伊

辞職

八幡宮	兼　宮司	曽根　徳隆	六・三十	北佐久
諏訪社上社	兼　宮司	竹埜　正	九・十九	諏訪
水神社	兼　宮司	竹埜　正	九・十九	諏訪
水神社	兼　宮司	竹埜　正	九・十九	諏訪
水神社	兼　宮司	竹埜　正	九・十九	諏訪

退職

八王子神社	権祢宜	横澤敬太郎	七・三十一	大北

大町市・株式会社 大八木建設

伝統技術を未来へ

どのような建物でも老朽化は進みます。由緒有る神社の建築物が存続しているのは、適切な維持管理が行われてきたからです。大町市の仁科神明宮や若一王子神社観音堂（県宝）など、歴史的建造物工事で数多くの実績がある（株）大八木建設で、現場を担当された一級建築施工管理技士の成沢司さんにお話を伺いました。

若一王子神社観音堂　修復工事（H19）

○文化財工事の難しさ

損傷した部分の取り替えは、新しい木材と古い木材の収縮率が違うので、『縮みしろ』を見込み修正します。建物が載っている礎石が『自然石』の場合、石の凹凸を合わせて土台や柱を削る『ひかりつけ』という技法を用います。

基礎を補強修理する工事では、建物を持ち上げ礎石を外すので、土台や柱のひかりつけに合わせ、一度外した礎石が同じ場所に戻るよう、高さや角度を計算するなど様々な知識と経験が必要です。

○技術の伝承

木材を継ぎ合わせる加工には継手（つぎて）や仕口（しぐち）など、昔からの技法があります。これは場数を踏まないと覚えられない。宮大工のみならず左官など職人さんも減少し、様々な技法を未来に繋げられるか不安もありますが、幸いにして当社は信州伝統的建造物保存技術研究会で情報を共有し、技術を持つ業者の皆様と連携し工事を行っております。

○不易流行

伝統を守る中でも、災害対策や現代に相応しい設備の導入も必要です。技術も日進月歩で進んでいます。本来の形を残しながらも、新しい要素を取り入れることで、建物を末永く使っていくことが出来ます。

○神社を守るために

「建立から百年持った建造物」は「百年持たせてきた」が正解で、建物は定期的な修繕が必要です。特に木造建築は雨漏りが大敵で、濡れた木材は白蟻被害も受け易くなります。小さな神社では、年に数日しか人が入らない拝殿などもあるかと思います。祭禮時に晴天だと雨漏りも見落としがちです。破損した部分も初期段階で修理できれば安価で済みますが、発見が遅くなれば費用も大きくなりますので、こまめに点検してください。

「誠実」という名の種で、
「安心」という名の芽を育てます。

株式会社 大八木建設

本 社：大町市大町5395-1
ＴＥＬ：0261-22-1809
www.oyagi-kensetsu.co.jp

令和元年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部　（単位：円）

款	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	739,000	740,000	△1,000	神社本庁より
2	交付金	98,518,000	98,548,000	△30,000	本庁交付金
3	負担金	33,515,000	34,170,000	△655,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	6,160,000	6,000,000	160,000	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	500,000	500,000	0	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	4,847,000	2,920,000	1,927,000	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	3,337,497	2,500,000	837,497	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	600,000	700,000	△100,000	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	308,000	200,000	108,000	
11	繰入金	0	0	0	
12	繰越金	16,562,213	14,602,000	1,960,213	
	合計	165,206,710	161,000,000	4,206,710	

歳出の部　（単位：円）

款	費目	決算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	46,611,763	46,611,763	0	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,243,165	8,700,000	△456,835	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	4,316,394	5,400,000	△1,083,606	会議旅費、諸費
4	庁務費	40,231,194	43,268,000	△3,036,806	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	25,277,688	25,277,688	0	神社本庁へ
6	事業費	10,790,593	16,900,000	△6,109,407	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	165,518	200,000	△34,482	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	573,538	660,000	△86,462	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	3,100,000	3,400,000	△300,000	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	3,500,000	3,500,000	0	基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	905,690	1,600,000	△694,310	新庁舎建設特別委員会会議費・調査諸費等
13	予備費	0	5,432,549	△5,432,549	
	合計	143,765,543	161,000,000	△17,234,457	

令和元年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部　（単位：円）

	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,330,000	3,315,000	15,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	700,000	700,000	0	交付金
3	本庁見舞金	590,000	150,000	440,000	本庁見舞金21件分
4	雑収入	58	1,000	△942	利息
5	繰越金	5,401,222	5,834,000	△432,778	繰越金
	合計	10,021,280	10,000,000	21,280	

歳出の部　（単位：円）

	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	2,947,660	3,685,000	△737,340	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,130,000	2,115,000	15,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本庁災害慰藉費	294,450	300,000	△5,550	災害対策資金
4	運営費	7,815	60,000	△52,185	事務費、旅費、雑費
5	予備費	269,935	3,840,000	△3,570,065	神道青年会災害復興支援金
	合計	5,649,860	10,000,000	△4,350,140	

謹賀新年

長野県神社庁

長野県神社総代会

神道政治連盟
長野県本部

長野県敬神婦人連合会

長野県神道青年会

長野県女子神職会

長野県教育関係神職協議会

諏訪大社

上田市下之郷中池西七〇一
生島足島神社
宮司代務者　池内宣裕
氏子総代長　松澤繁樹
職員総代一同

戸隠神社
名誉宮司　藤井茂信
宮司　水野邦樹
他　職員一同

穂高神社
名誉宮司　小平弘起
宮司　穂高光雄
職員一同

松本市美須々六番二号
長野縣護國神社
宮司　奥谷一文
他　職員一同

松本市
四柱神社
宮司　宮坂信廣
他　職員一同
http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira

深志神社
名誉宮司　遠藤久芳
宮司　牟禮仁
他　職員一同

諏訪市茶臼山鎮座
手長神社
宮司　前島正

武水別神社
宮司　堀内潔人
他　職員一同

若一王子神社
宮司　竹内直彦
大町市大字大町二〇九七

木曽総社
御嶽神社
宮司　武居哲也

木曽御嶽王滝
御嶽神社
宮司　滝和人

飯田市浜井町
破魔射場鎮座
冨士山稲荷神社
宮司　市原貴美雄
職員総代一同

佐久総社
新海三社神社
宮司　井出行則
総代会長　丸山勝雄
佐久市田口鎮座

上田市常田鎮座
総社大宮
科野大宮社
宮司　今井貴美
総代会長　宮下憲治

上田市中央北鎮座
眞田三代崇敬社
大星神社
宮司　関口守和
祢宜　工藤康高
総代長　山口好美

飯山市小菅の里鎮座
小菅神社
宮司　鷲尾隆男
総代会長　小林忠雄

上伊那郡辰野町
三輪神社
宮司　矢島正稔

上伊那郡飯島町
梅戸神社
宮司　今井泰
祢宜　茅野理也
権祢宜　今井佑

上伊那郡辰野町小野
矢彦神社
宮司　立澤寿江
祢宜　立澤俊輔
総代会長　遠藤守

謹賀新年

大御食神社
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
権祢宜　富岡清彦
総代会長　新井亮男

水無神社
木曽郡木曽町福島鎮座
宮司　宮田利彦
祢宜　宮田伊織

鎮神社
国選定重要建造物群宿場街
中山道奈良井宿鎮座
宮司　巣山清人
総代会長　堀田武

住吉神社
あづみ野
宮司　飯田泰之
氏子総代会長　嶋田茂

大宮熱田神社
松本市梓川梓鎮座
宮司　山田充春

小川神社
上水内郡小川村小根山鎮座
宮司　宮下俊樹
祢宜　太田陽一
総代長　西沢哲朗

守田神社
七二会鎮座
式内社
宮司　矢澤龍一
主任総代　酒井健次
会計　吉澤博樹

八幡宮
木曽郡木曽町開田高原西野
宮司　神田肇
祢宜　毛利ゆき乃

湯福神社
長野市箱清水鎮座
宮司　齋藤安彦
祢宜　齋藤英之
権祢宜　齋藤友加里

武井神社
長野市東町鎮座
宮司　齋藤吉睦

象山神社
長野市松代町鎮座
宮司　瀧澤基
祢宜　瀧澤けい子
権祢宜　瀧澤理恵

小井川賀茂神社
岡谷市小井川鎮座
宮司　有賀寛典

鳩ヶ嶺八幡宮
飯田市八幡町一九九九
（重要文化財誉田別尊神像）
宮司　伊原義雄
総代会長　遠藤信一

仁科神明宮
国宝
大町市社宮本
宮司　松井秀吾
氏子総代会長　宮崎栄介

荒井神社
伊那市荒井区
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　熊谷久幸

西宮神社
長野市岩石町鎮座
えびすの神
宮司　丸山肇
役員総代一同

有明山神社
安曇野市穂高有明字宮城
彫刻で名高き裕明門
宮司　山崎佳宏
総代会長　塚田銀稲

箕輪南宮神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　北條真一
箕輪町大字中箕輪木下一二五〇〇

三嶽神社
塩尻市中西条鎮座
宮司　宇治橋牧子
祢宜　宇治橋克彦
権祢宜　宇治橋邦彦

小野神社
塩尻市北小野鎮座
宮司　宇治橋淳
祢宜　宇治橋邦彦
総代会長　浅田貞一

神明宮
松本市村井町
宮司　永持はな子
祢宜　宇治橋邦彦
権祢宜　小穴真希

白山社
伊那市御園区鎮座
宮司　伊藤光宣

美和神社
長野市三輪鎮座
宮司　齋藤吉睦
権祢宜　矢澤龍一

大宮五十鈴神社
駒ヶ根市赤穂鎮座
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
http://isuzujinja.com

長沼神社
長野市大町鎮座
宮司　長沼忠行
祢宜　長沼房子
権祢宜　長沼誠一

謹賀新年

上伊那郡南箕輪村
殿村八幡宮
宮司 唐沢克忠
祢宜 唐沢光忠
総代会長 小松長城

長野市松代町皆神山
熊野出速雄神社
（皆神神社）
宮司 武藤美登

木曽郡南木曽町田立鎮座
県無形民俗文化財花馬祭り
五宮神社
宮司 髙橋邦衛

佐久市臼田鎮座
稲荷神社
宮司 伴野健一
総代会長 久重義

長野市戸隠鎮座
矢本八幡宮
宮司 宮川和工
祢宜 宮川英士
主任総代 羽田静男

「御朱印さんぽ」
八王子神社
宮司 平林秀文

奥州一之宮鹽竈神社御分社
鹽竈神社
宮司 大澤明三
祢宜 大澤節子
総代会長 青木三治

国選定重要建造物群漆職人街
木曽平沢鎮座
諏訪神社
宮司 巣山清人
総代会長 太田幸日児

木曽郡上松町
駒嶽神社

木曽郡上松町
諏訪神社

長野市中条鎮座
式内 皇足穂命神社
諏訪社合殿
宮司 宮下俊樹
祢宜 宮川和工
総代長 堀内芳丈

松本市神林鎮座
神林神社
宮司 宇治橋淳
総代会長 山岸和明

安曇野市豊科南穂高
洲波神社
宮司 宮澤佳廣

東筑摩郡麻績村麻鎮座
重要文化財
麻績神明宮
宮司 山崎洋文
役員会長 若林今朝路

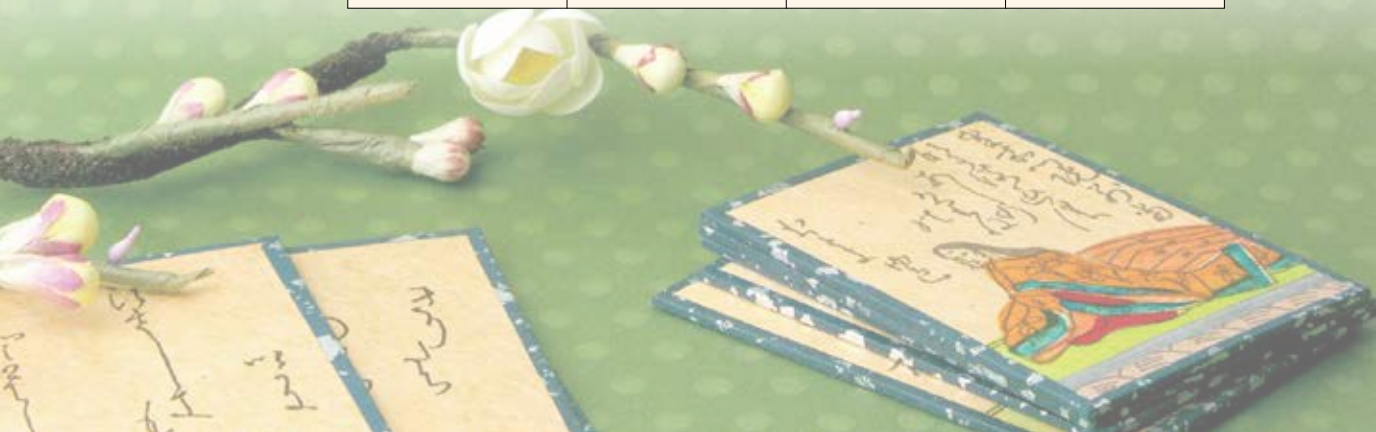
神社庁松塩筑支部
支部長 林邦匡
副支部長 上條哲哉
副支部長 隠岐光洋

子檀嶺神社
宮司 清住宗廣

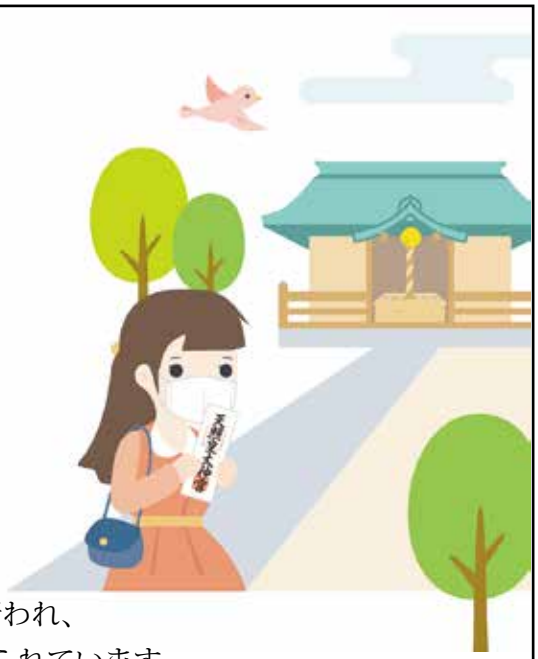
飯山市五束鎮座
（国重文若宮八幡社）
健御名方富命彦神別神社
宮司 髙橋穣
祢宜 髙橋晶
総代会長 大日向一郎

佐久市平賀鎮座
平賀神社
宮司 小間澤肇
祢宜 小間澤貴子
総代会長 髙橋登

千曲市若宮鎮座
佐良志奈神社
宮司 豊城憲和
主任総代 高松昌登
外役員一同



伊勢神宮の御神札（神宮大麻）
氏神神社の御神札
今だからこそできるだけ
多くの人々にお頒ちしましょう



伊勢神宮では、日々厳粛な祭典が行われ、
「国安かれ民安かれ」と祈りが捧げられています。
この尊い伊勢神宮のお力をいただくために
毎年各地の神社を通じて頒布されるのが
神宮大麻です。
そして、皆様のお住まいの地域をお守りくださるのが
氏神さまで、神宮大麻と氏神神社の御神札の両方を
おまつりいただくことが家庭祭祀の基本です。

新型コロナウイルス感染症の流行により、
世界は瞬く間に一変しました。
家庭祭祀の習慣がない御家庭も増えていますが、
それぞれが将来に不安を抱える今だからこそ、
神宮大麻をできるだけ多くの方々にお受けいただき、
心のよりどころとしておまつりいただくことが大切です。

頒布に携わる皆様には感染症対策を徹底の上、
頒布活動への一層の御協力をお願いします。